

大阪湾漁場環境速報

平成27年12月10日発行
兵庫のり研究所

栄養塩は、全域で6 $\mu\text{g-at/L}$ 以上となっており、各ノリ漁場周辺での栄養塩は十分量で推移しています。珪藻は、湾奥部でキートセロスを中心とした数種の小型珪藻が多く発生していますが、それ以外の海域においては散見される程度と少ない状況でした。

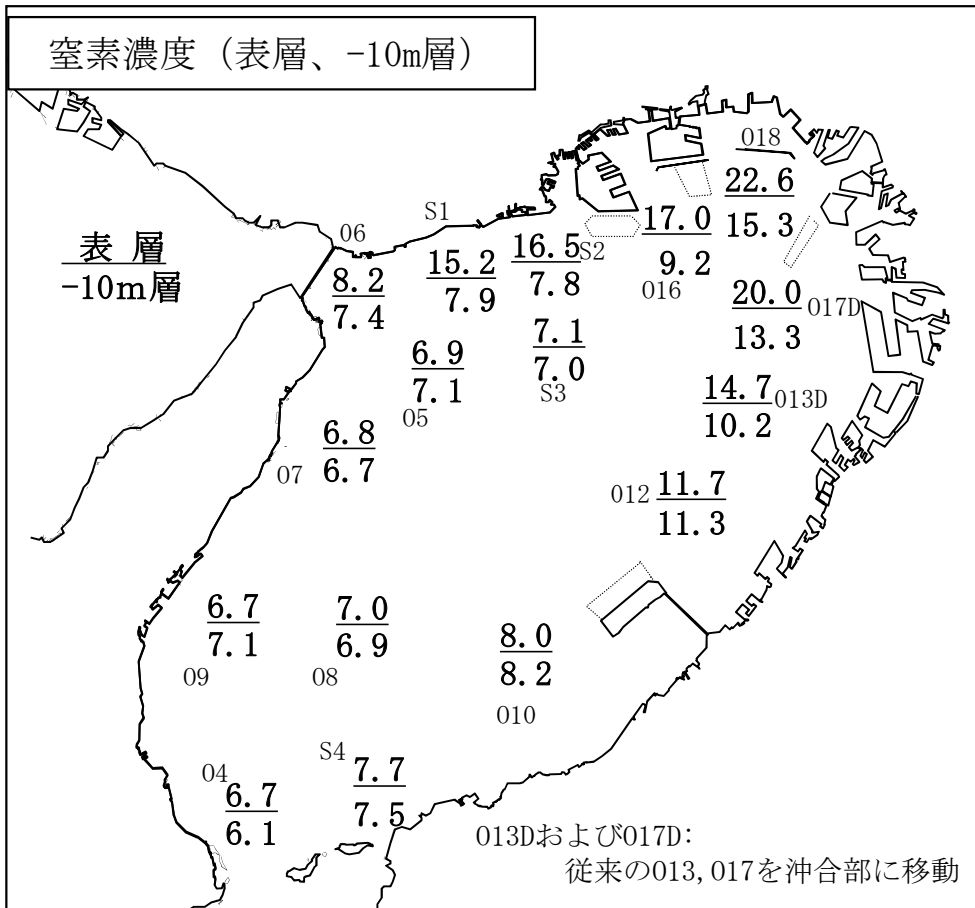
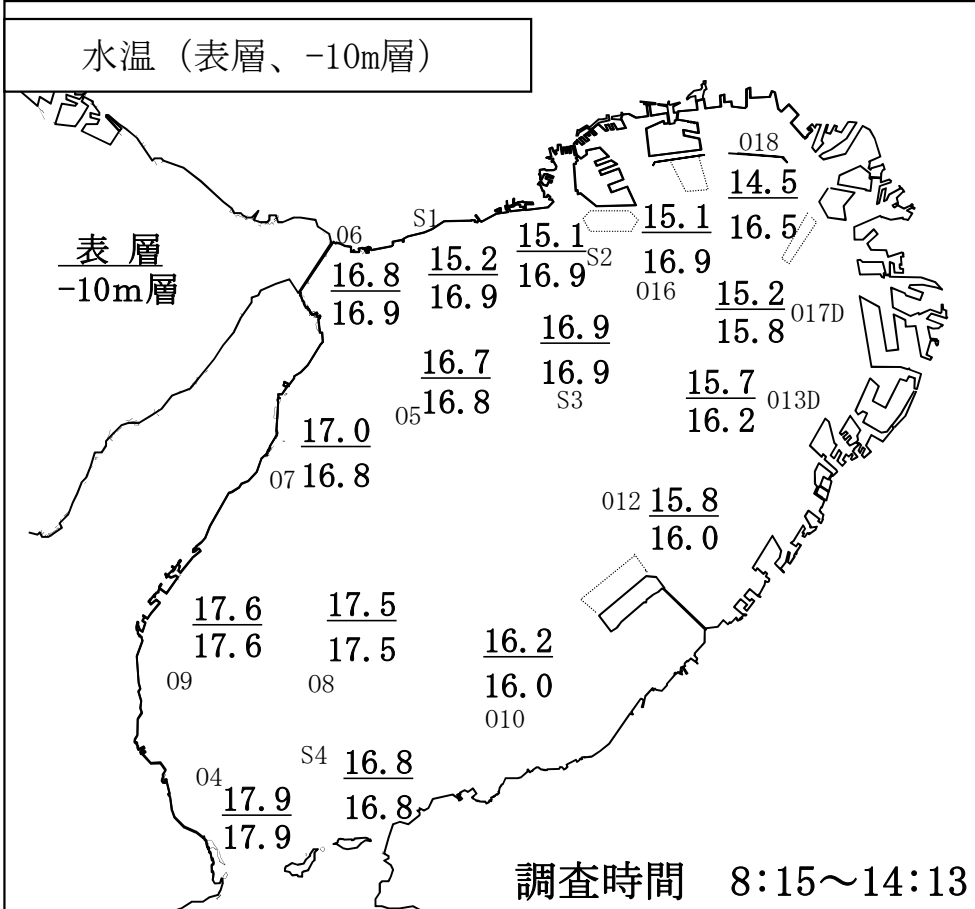
(水温) 表層は湾内15~17℃台で、平均16.5℃。平年比約0.2℃低い。-10m層も平均16.9℃と平年比0.1℃低い状況。

(塩分) 表層平均31.77psu(平年 32.04)。-10m層平均32.06psu(平年 32.33)。

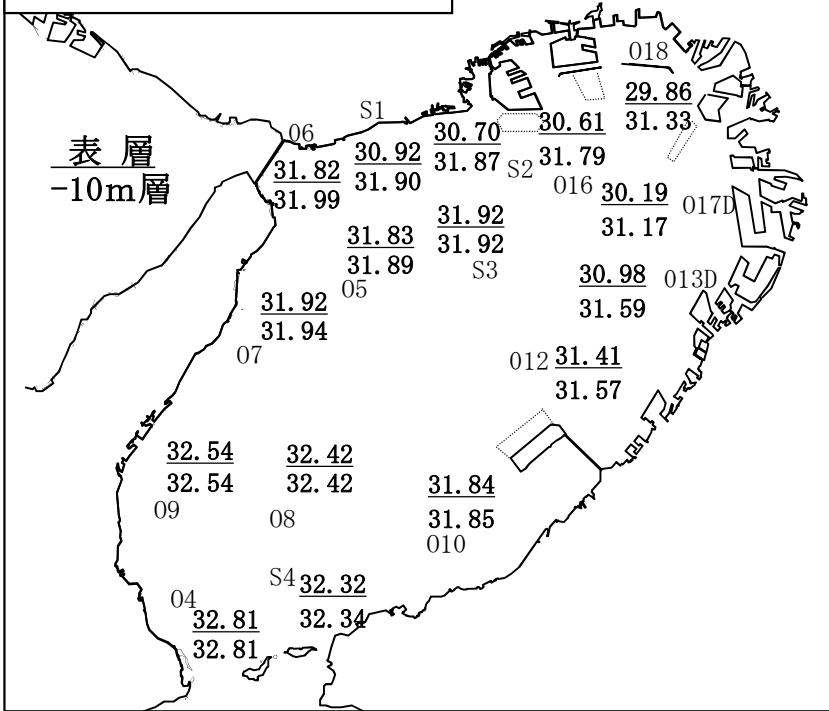
(栄養塩、他) 表層の窒素は平均9.7 $\mu\text{g-at/L}$ 、リンは平均0.70 $\mu\text{g-at/L}$ 。窒素・リンともにほぼ平年並。-10m層(平均)は、窒素7.7 $\mu\text{g-at/L}$ 、リン0.67 $\mu\text{g-at/L}$ 。前回(11月上旬)調査時と比較し-10m層の窒素で+1.8 μ ・リンで+0.12 μ となっており、全体に栄養塩の底上げが見られている。11月下旬、特に神戸地先で多く発生していたコシノディスカスは大幅に減少していた。神戸空港東~湾奥部・関西空港北部にかけての海域で、キートセロスを中心とした小型珪藻が多く発生しているが、それ以外の海域への拡散は今のところ見られていない。

上段 (今回値)	平成27年12月9日調査
中段 (昨年度)	
下段 (平年度)	12月上旬

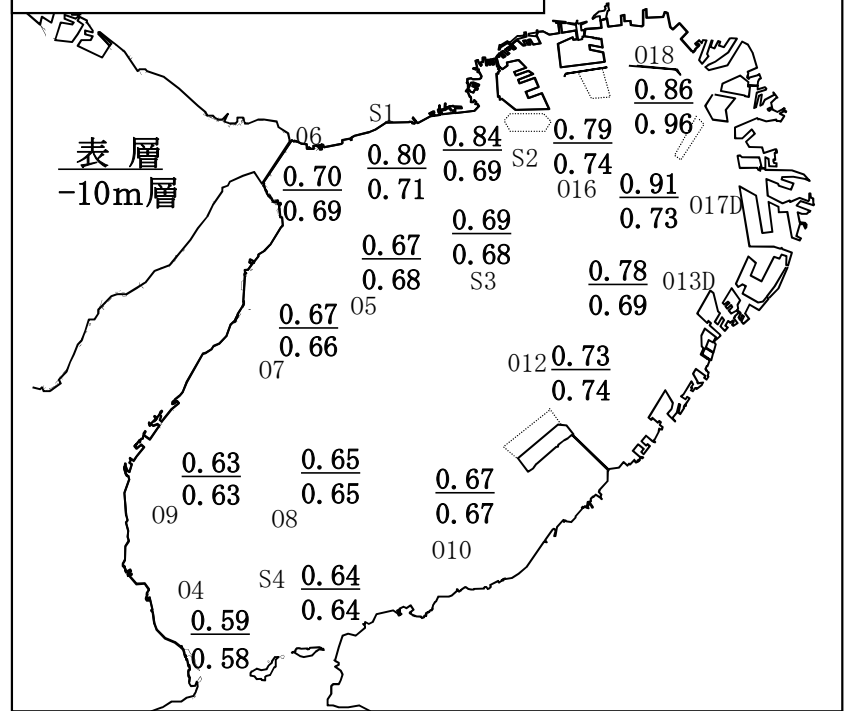
調査地点	水温 (°C)	塩分 (psu)	三態窒素 ($\mu\text{g-at/L}$)	リン ($\mu\text{g-at/L}$)
04	17.9	32.81	6.7	0.59
	18.0	32.91	6.5	0.57
05	16.7	31.83	6.9	0.67
	16.9	32.29	6.8	0.68
06	16.8	31.82	8.2	0.70
	17.0	32.31	7.1	0.69
07	17.0	31.92	6.8	0.67
	17.2	32.36	7.0	0.68
08	17.5	32.42	7.0	0.65
	17.6	32.59	7.0	0.64
09	17.6	32.54	6.7	0.63
	17.5	32.65	6.6	0.62
010	16.2	31.84	8.0	0.67
	16.0	32.00	9.7	0.70
012	15.8	31.41	11.7	0.73
	15.9	31.72	10.9	0.69
013D	15.7	30.98	14.7	0.78
	15.7	31.26	13.0	0.68
016	15.1	30.61	17.0	0.79
	15.1	30.25	20.5	0.80
017D	15.2	30.19	20.0	0.91
	15.4	29.83	27.1	0.99
018	14.5	29.86	22.6	0.86
	15.1	29.13	30.6	1.07
S1	15.2	30.92	15.2	0.80
	16.3	31.95	10.1	0.71
S2	15.1	30.70	16.5	0.84
	15.5	30.92	16.4	0.76
S3	16.9	31.92	7.1	0.69
	16.8	31.93	7.9	0.63
S4	16.8	32.32	7.7	0.64
	17.4	32.66	7.3	0.63



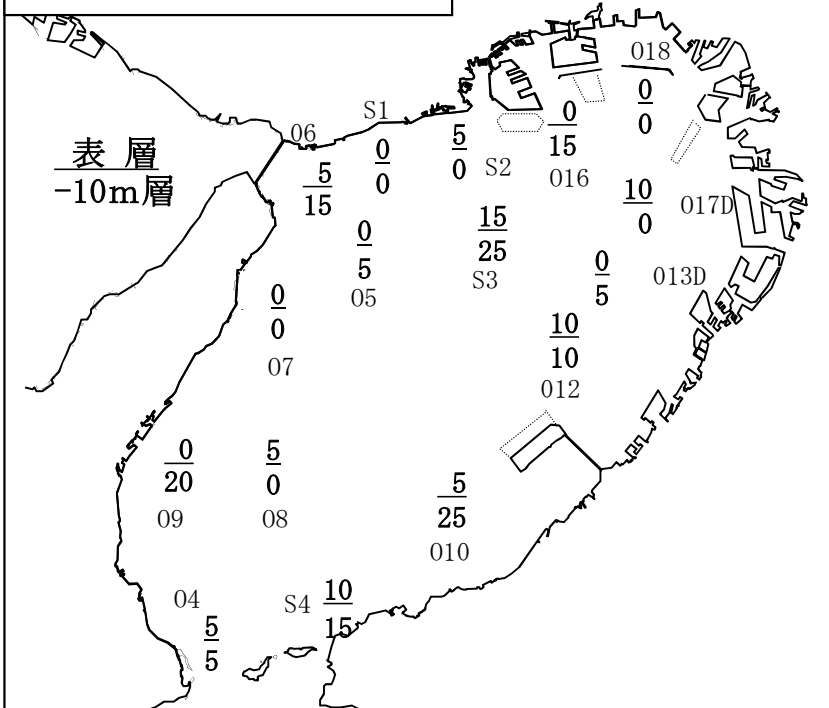
塩分 (表層、-10m層)



リン濃度 (表層、-10m層)



コシノディスカス (細胞/L)



スケルトネマ (細胞/ml)

